

議 事 録

会議名	平成30年度第2回寒川町総合計画審議会
開催日時	平成30年11月14日（水） 午前10時から午前11時50分
開催場所	寒川町消防本部3階 講堂
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<p>&lt; 委員 &gt;            杉崎隆之、山蔦紀一、小川雅子、丸山尚子、長谷川嘉春、岩崎幸司、千葉保雄、平本正子、内野晴雄、山本哲（会長）、大庭照人、小笠原チエ子            （欠席者）            黒沢善行、細川京三、相田孝、市川喜久男</p> <p>&lt; 事務局 &gt;            企画部長：深澤文武、企画政策課長：高橋陽一、同主査：尾畑浩司、三澤忠広、同主任主事：山下道治、三澤功一</p> <p>※ 傍聴者2名</p>
議 題	<p>(1)平成30年度第1回寒川町総合計画審議会書面会議における委員からの意見について</p> <p>(2)寒川町総合計画「さむかわ2020プラン」の問題点・課題及び見直しの視点について</p> <p>(3)高知県佐川町への視察について</p> <p>(4)持続可能な開発目標（SDGs）について</p>
決定事項	<p>議題(1) 平成30年度第1回寒川町総合計画審議会書面会議における委員からの意見について  <b>【事務局から内容説明し、委員から別添のとおり各種意見等あり】</b></p> <p>議題(2) 寒川町総合計画「さむかわ2020プラン」の問題点・課題及び見直しの視点について  <b>【事務局から内容説明し、委員から別添のとおり各種意見等あり】</b></p> <p>議題(3) 高知県佐川町への視察について  <b>【事務局から内容説明し、委員から別添のとおり各種意見等あり】</b></p> <p>議題(4) 持続可能な開発目標（SDGs）について  <b>【事務局から内容説明し、委員から別添のとおり各種意見等あり】</b></p>

公開又は非公開の別	公開	非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	<p>○開会 議事までの間、深澤部長が司会進行</p> <p>○議題（議事進行：山本会長） （山本会長）本日の議題（1）につきまして、事務局より説明をお願いいたします。</p> <p>&lt;事務局から平成30年度第1回寒川町総合計画審議会書面会議における委員からの意見について&gt;</p> <p>（山本会長）議題（1）の説明が終わりました。ここで皆様からご意見がございましたらお伺いしたいと思います。よろしいですか、この件に関しまして。いただいた意見は当時の対応ということでございますけども。</p> <p>（山蔦委員）1ついいですか。最後の方のご意見の中で、1番末尾のところには計画の責任者をはっきりさせてほしいということが書いてあって、その上に総合計画の役に立ったこと、住民満足度はどうなったか、そういうものの目標が達成できたかどうかを対比させて、計画の責任者をはっきりさせることが必要だろうという意見が2つぐらい出ていたと思いますが、これについて見解をお願いします。</p> <p>（山本会長）事務局お願いします。</p> <p>（事務局）ただいまの意見についてでございますけれども、当然各施策については部長級等の職員、またその下の事業単位では各課の長が責任者にしたということで、明確に位置づけをしてございます。ですので、毎年事業を1年間やった結果として事務事業評価、また今、実施計画は3年間でございますけれども、その切りかえのときには施策評価ということで、施策レベルでの評価もしているという状況でございます。結果については町議会へのご報告ですとか、またホームページ等で町民の方にもお知らせをしているという状況でございます。ですので、責任者が誰だかわからないということではないということでございますので、よろしくお願いいたします。</p>		

	<p>(山本会長) よろしいですか。そのほかございますでしょうか。</p> <p>(内野委員) 今、ご報告の中で評価はしているという発言がありましたね。それは行政の内部でしているということなんでしょうか。ちょっと教えてほしいんですが。</p> <p>(山本会長) 事務局お願いします。</p> <p>(事務局) まずは当然ながら内部で評価を。</p> <p>(内野委員) 数値的なものとかは出ているんですか。</p> <p>(事務局) はい、各施策レベルでも数値目標を持っておりまして、その下の事務事業レベルでも数値を持っておりまして、それに対して結果がどうであったのかということをきちんとやって。</p> <p>(内野委員) 客観的に。それは報告するんですよ。</p> <p>(事務局) はい。</p> <p>(内野委員) たしか神奈川県は評価部会という部会がちゃんと評価する何かありましたよね、総計審のほうへ。寒川にはそういうのはあるんですか。</p> <p>(事務局) 評価部会という形では設定はないんですけども、総合計画審議会という場で、審議会であればそういった形でやっていただいておりますし、またそれとは別に議会のほうにも、所管していただいている常任委員会にもご説明をさせていただいているという状況でございます。</p> <p>各自治体のやり方を見ると、住民の方で組織する、いわゆる評価部会というやり方をしている自治体もありますので、それは今後、新たな総合計画を策定していく中で、PDCAの回し方としてはそういうものが寒川のやり方としてはいいのではないかという方向性というか、お考えが見えてくれば、当然そういうことも検討したいと思っています。</p> <p>(山本会長) そのほかございますでしょうか。特になければ、議題（１）は終了させていただきます。</p> <p>次に、議題（２）につきまして事務局より説明をお願いいたします。</p>
--	--

<事務局から寒川町総合計画「さむかわ2020プラン」の問題点・課題及び見直しの視点について>

(山本会長) 資料2の説明がございました。ご意見を伺いたいと思います。

(杉崎委員) 4番にかかわるところなんです、町民の関心が低いということに関してどう行政側として捉えているのか、なぜ低いのかということ、ここをしっかりとっておかないとまた同じ繰り返しだと思うんです。町民が高い関心を持ち、町民と町の協働を推進する計画にしたとしても、ならないんじゃないかと思うんです。

高知県のほうの視察のお話が後であると思うんですが、なかなか難しいのかなと思うんです。計画自体、一般の町民の方は見ないですよ、いろんな計画書がある中で。本当に関心を持っていただいている方ぐらいです。それも全部読むかといったら、そうでもないと思いますし、その辺のところはどう捉えているのか。それを解決しない限りはなかなか協働には結びつかないかなと思うんですけれども、いかがでしょう。

(山本会長) 事務局お願いします。

(事務局) ありがとうございます。従来、行政計画というものはそういう傾向があったと思うんですが、行政の職員が基本的に全て考えてしまって、つくり上げた結果だけ皆さんにお知らせするという傾向が強かったのかなと思ってございます。

我々も今の2020プランが32年度末に終わらして、新たな総合計画的なものをつくっていくに当たって、そういった課題をどうしたら解消できるのかということで、当然ながらいろいろな自治体でいろいろな取り組みをしまして、後ほどご説明をまたさせていただきますけれども、高知県佐川町ではこういったきれいな形で、これは今の寒川町の2020プランみたいに行政職員が使うものとして、これは全世帯に配布したと聞いているんですけども、町民の方が、これきれいだが、何が書いてあるのかなというふうにちょっと手にとってみたくなるような企画ものを行っているというやり方をしているところがあるというのを見つけました。

中を見てみると、基本的には何月何日にこういう総合計画のワークショップをやるので来てくださいと単純にやっているわけではなく、まず職員がいろいろかかわりを持たせていただいている町民の方の中で、特色ある取り組みをしている方ですとか、一緒につくり上げようということに関心を持っていただけ

そんな方を150人ぐらい挙げてもらったらしいんですけども、その中で地域のバランスを見ながら、実際にお一人お一人にお会いして、町に対する思いですとか、町政に対する思いをインタビュー形式でお話を伺ったそうです。その中で一人一人の思いを把握させていただいて、次はみんなで集まって町の職員も含めて、みんなで一緒に話をしていきたいということでお声がけをしたところ、そういう丁寧な掘り起こしから始めたということもありまして、余程ご事情があって、ご予定が合わない方以外は、ほぼ全ての方が応じてくださったということがわかりました。

結果的に、数多くの方がかかわっていただいでつくり上げたということで、皆さん自分事として捉えていただいている。自分たちで話して、自分たちが決めた目標、計画だから、それは一人一人ができることを頑張ろうという中身になっているそうです。

そういったところが、行政がつくったものを一方的にやっていくので、協力してくださいというやり方ではなく、つくる段階からかかわっていただいで、自分たちのこととしてかかわっていただくことで、より多くの人がかかわっていただけますし、全然こんなもの知らないということが解消できるのではないかと考えまして、佐川町にもお願いして、我々職員のほうで実際の状況を視察という形でお伺いしていきたいと思っているところでございます。

すみません。ちょっと長くなってしまったんですが、この問題を解消するには、そういった意味で佐川町のいい面をまねをさせていただいて、一人一人丁寧に掘り起こしを行うことで、今の課題を解消していければと思っております。

以上でございます。

(事務局) ちょっと補足をさせていただきます。今、高橋課長のほうから、計画の策定に当たっての手法、方法についてご説明申し上げましたが、満足度の点が低いとか関心が低い、これの根幹はどこにあるのかといったご質問だと思いますけれども、そこについてはこの1番にある総花的である。要はいろんなことが書いてあって、全てを書いてあるから、逆に何が書いてあるかわからないといったご意見をいただいています。

本来、行政が2020プランをつくったときは、19年というロングスパンの中の計画といった中で総花的に書いてあるがために、この町はどっちへ向かっているのか、結局どうなりたいたいのかがなかなかわからないよといった中で、あまりにも書き過ぎていてわからないという意見がほとんどだと思います。

我々としてはそういったところを解消すべく、総合計画というのがこの時代に合っているのかどうか、この検証も必要だと思いますが、選択と集中、要は

この町がいつまでに、何をどうするのか、そういったことを明確にビジョンとして出していく。それが本当の意味での町民から求められていることだと思いますので、そういった部分に十分配慮しながら今後つくっていきたいと考えてございます。

以上でございます。

(山本会長) 杉崎委員お願いします。

(杉崎委員) 今、部長が言ったとおり、こういう町にしたいというビジョンがないんですよ。町長が代われれば、またそれも変わる可能性があるのですが、総合計画の中では難しいかと思うんですけども、そこがないから、町民もどういう町になるんだというものがわからないという声が多いんです。まず、そこがあって、どういうアクションをしていくかじゃないですか。

そこをまずしっかりとしなきゃいけないんですけども、ただ、今、部長が言われたように、総花的じゃなくて、選択と集中でやっていくんだというのはいいんですけども、いろんな世代の方から住民の要求を聞いていけば、選択と集中なんかできませんよね。全部やらなくちゃいけないんです。その辺の整合性もしっかりととれるような形で、まずビジョンあってのまちづくりだと思うので、そこは明確にしていきたいと思います。

また、視察に関しては後ほど説明があると思いますけれども、そういった先進的に取り組んでいるところを参考にするのは非常にいいと思いますので、よろしく願いいたします。回答は結構です。

(山本会長) 事務局お願いします。

(事務局) ご意見ありがとうございました。今、杉崎委員が言われた点について共通の思いは持っておりますので、そういった部分に十分配慮していきたいと思えます。

以上でございます。

(山本会長) そのほかございますか。

(小笠原委員) 杉崎委員とちょっと重複する部分があるんですけども、佐川町に行かれて、佐川町でなさっていることはまだ詳しいことはわからないんですけども、同じようなことは寒川町でもやっていますよね。

例えばワークショップをやったり、審議会とか、あとまちづくり懇談会とかい

ろんな場面で、私としては都合がつく限りそういった場面に参加するんですけども、大体顔ぶれが一緒なんです。多分そういう方は本当に関心がおありだし、何とかしなきゃいけないという思いがあるんですけども、それが広がっていかないという、そこは関心が低いから。じゃ、これから先考えたときに、寒川にとって何が問題なのか、その問題を解決するためにどうしようかということに対して、そもそも問題意識がすごく欠けているような気がするんです。

だから現在、例えば話を聞くと、別に今のままで困らないしと言うんです。自分が生きている間はそんなに悪くならないだろうみたいに考えていらっしゃるというんでしょうか。だから、もう少しどうということが問題であって、これから先この町はどうなるのかということは、なかなか皆さん見たくないのか、聞こうとしないのかわからないんですけども、だから杉崎委員がおっしゃったように、町民の関心の低さということに帰結するのかなと。だから、それを打開するためにどうしたらいいのかといった技法を、いま一度洗い直す必要があるのではないかと強く感じます。

(山本会長) 事務局お願いします。

(事務局) ありがとうございます。実際、本当に、今のままで何がいけないのというふうに感じていらっしゃる方は多いと思います。佐川町はつくっていくときに客観的な統計のデータをきちんと用いながら、このままいくと我が佐川町は現実的な未来としてはこういうふうになってしまう。人口減少ということが一番わかりやすい課題なんですけれども、そうするとこういう面が出てくる、こういった面が出てくるときちゃんとワークショップの中でやっていくんです。

そんな中で、ほっておくところなっちゃうんだから、こうしていくべきじゃないかという段階をきちんと踏みながらつくっていく。やり方でいうと、ソーシャルデザインという手法があるそうなんですけれども、人によって行き当たりばったりでいくのではなくて、客観的なデータに基づいて現実的な未来を予測する。プラス、潜在的な脅威という言い方をしているわけですけども、今気づいてない脅威がまだまだあるんじゃないかということも含めて、多くの町民の方で議論しているというやり方をしています。

です、その結果どうだったのか。これができて、それで終わりということでは当然ございませんので、その後これがつくられた後、今、本当に佐川町はどう動いているのか、予測したとおり増えているのかということも含めて、職員の方だけじゃなくて、地元の方にもお願いをしまして、そののい

い面も当然あると思いますし、思ったようにいってないという悪い面もあると思いますので、そのいい面、悪い面、両方教えていただくことで、寒川町でどうしていくべきかということを考えていきたいと思っております。

以上です。

(山本会長) 岩崎委員。

(岩崎委員) 総合計画、これ実は私、ほかの自治体の審議委員も兼ねておまして、そこでも全く同じような課題が出ているんです。そういうものなのかなという認識にもなってしまうんですけども、結局この課題を乗り越えていく会議を繰り返しているうちに期間が来てしまうという局面も見受けられるんです。非常に無駄な作業なのかなというふうに思います、そこだけ見ると。

何でそういうことなのかなという意味では、先ほど部長もおっしゃっておられたように、もっと端的でわかりやすい計画、それが町民目線でいけば興味のあること、また町民個人に振りかかってくるといいますか、自分の問題ということになれば、おそらく町民の方はもっともっと興味を示すと思うんです。

ですので、もう少し端的でわかりやすい計画をアピールできればと思います。そうすることによって町民の方、また実際に業務に携わる職員の方ももっと求心力というものが深まってくるのかなと感じます。

それと質問なんですけれども、この上の四角の問題点・課題というのは出どころはどこなんですか。町民の方、もしくは議会とか職員とか、どういう立場の方からの指摘なんでしょう。

以上です。

(山本会長) 事務局お願いします。

(事務局) まず、出どころから先に。これまでに進めてきている中で、今の岩崎委員のわかりにくいとか、話をされても全然よくわからないという町民の方の声もありますし、先ほど進行管理的に町議会のお話をしていますということだったんですが、その中でいただいたご意見を我々として把握しているということで、集約したものを今日ご提示させていただくということです。

つくるに当たってこれまでの改定の時期等、町民の方々にアンケート調査などもやっています、わからないという回答が一番多いんです。そういったなぜわからないのかなというところを我々なりに紐解いていきますと、やっぱりここに掲げているような問題があるんじゃないかということでございます。

端的でわかりやすい計画というところはまさしくそういうことで、お隣の藤沢市さんでもいわゆる総合計画というものはやめて、総合指針といって、重点化プログラムのなものに変えているというやり方をしていますので、お隣にもいい事例がありますので、そのやり方なども踏まえながら、新しいものはよりよくしていきたいと思っております。

(岩崎委員) ありがとうございます。

(山本会長) そのほかございますでしょうか。山蔦委員どうぞ。

(山蔦委員) 前に意見がいろいろ出ている中、私もある程度集約して全体感を持って話すつもりなんですけれども、総花的ということが書いてありますけれども、おそらくもっと簡潔にしようといってもならないと思いますよ。というのは、一種の仕事づくりになっちゃっているところがあって、藤沢の例を今お話しされましたけれども、見てみるとプロジェクト管理を中心にしています。だから、大事なことだけぼんぼんと書いてあって、それを住民に示して意見をもらう。その意見を集約して計画にするという形になっていますし、例えば2020プランの今回の実施計画を10ページにまとめるとか、何かそういうプレッシャーを与えないと膨張してしまうんです。

これをとめるために私の提案の一つは、見直しの視点というところに書いてある言葉の中に意味がわからない言葉がいっぱい書いてあるんです。これを一々説明していたら、住民はわからなくなっちゃいます。例えば常に見直しのできる計画と書いてある。常にではわかりませんよね。1年置きなのか2年置きなのか、常にと書いてある。それから、寄与度が見える計画、見える計画ってどういう計画ですか。共感できる内容、手に取って見たいと思えるデザイン、町民とともに歩むことができる、活用できる、的確に反映された、見える化、重複しない、こういう言葉を全部ここからとっちゃうと、さっきの藤沢で言ったようなプロジェクトにびしっとまとまるような気がするんです。

こういう飾り文句をずっと続けて、たくさん載せよう載せようと思うと、当然ページ数が上がっちゃうと思うんです。効率が非常に悪くなると思うんです。皆さん前にも指摘されているとおりでなんですけど。

三木町というのが同じく四国にあるんですけれども、そこはチームをつくって、住民が提案するんですけれども、その提案した金額は、一般会計予算の10%以内はそれを採用するといつて決めちゃっているんです。だから、役所はそこに手を出せないんです。議員はひどいことをやっていると思うかもしれませんが、そうやって4年間ぐらいやって、三木町の町長はそれを押し通

しているんです。非常に簡単、簡潔、住民がわかりやすい。そういう計画は初めは小さなものがいっぱい出てきたらしいですけども、今はちゃんと将来計画を踏まえたような提案がどんどん出てきて、それをちゃんと予算化して実施しているんです。

もちろんこれはご存じのとおり、この総合計画は数年前に国はもうつくらないでいいよと、町に義務化しないよという指示を出しているのであって、本当にこれを簡潔にして、住民にわかりやすくして、住民たちの参画意識をもとに政策を実施するために、国はそういう枠を外したんだと私は思っているんです。

だから、その辺について、飾り文句が多いことと、本当に総花的なものをやめて小さくできるかどうか、それについて回答をお願いします。

(山本会長) 事務局をお願いします。

(事務局) この議論は山蔦委員と何度もしているところなんですけれども、まず国がつくらなくていいと言ったのは、私は誤りだと思っています。国は、国が義務づけて市町村に総合計画をつくらせるのは地方分権の流れからいっておかしいので、そこの義務づけはやめますと言っただけであって、総合計画をつくらなくていいと言ったとは私どもは認識してございません。

その他の部分についてもいろいろご意見をいただいておりますけれども、藤沢市さんも、総合指針にありましたけれども、本当に簡単なものだけしかやらなくなったのかというと、我々も調べましたけれども、全くそんなことはなくて、各セクションがいろんな事業を寒川町と同様にやっております。ただ、その中でもここについては重点化プロジェクトなので確実にやりますという見せ方を上手にしているだけであって、あれだけの大きな組織が10ページでおさまるぐらいの仕事しかしてないかということ、そんなことはないです。

ですので、ある意味町民の生活という分野は幅広くありますので、我々は法的にやらなければならない義務づけられた仕事というものがあって、それは各セクションが責任を持ってやっているんですけども、だからといってそれを計画書に全部のせて、今までもそうやって見せてきたんですけども、そういう必要性はないんじゃないかと。かえってわかりづらくて、町民から遠いものになってしまっているのではないかという課題、反省は感じております。

そういった意味で確実にこれだけは町民の声も、社会的実勢を捉えてやっていくものについては、あんまり分量をかけずにはっきり見せていく。それが皆さんに浸透するというやり方として一番いいということで、方向性としてはあると思いますので、そんなふうにしていきたいと思っています。

ですので、委員からのご意見も当然踏まえた上で、一番いい形をとっていき  
たいと思っています。

以上でございます。

(山蔦委員) 総合計画は不要だとは言ってなくて、藤沢市もちゃんと総合計画は別  
に持っているんです。そこから抜き出したものを町民にわかりやすく、これに  
重点的に、ここまで責任を持って、だれを責任者にしてやりますよというこ  
とを抜き出しているような形で進めていると思います。間違っていたら指摘して  
ください。

私は不要だとは思っていません。ただ、総花的ということについて、どんど  
ん集中力が下がりますし、評価がどんどんわからなくなりますし、何を本当に  
やっているのかが住民に伝わらなくなるという意味で、今、例えば佐川町もそ  
んなにたくさん出してもみんな見ないと思いますけど、せいぜい10ページぐ  
らいのもので、これに力を入れて、ここまでは必ずやりますよという形の総合  
計画の説明書でもいいですし、計画書でもいいです、名前はともあれ、そうい  
うものを持っていかないと、住民と一緒につくっているという感覚はどんど  
ん離れていっちゃうという意見で言ったわけなので、そこは誤解しないようにお  
願いします。

以上です。

(山本会長) 事務局お願いします。

(事務局) ありがとうございます。今、山蔦委員が言われたのはもっともお話  
だと思っています。先ほど来私がお話ししたのはまさにそのことであって、  
総花的に書いてあるから伝わりづらい。藤沢もやはり同じ例だと思うんです。  
結局は町民に対して、この町はどっちに進んでいくのかということをお知ら  
せする必要があるということでお話ししていますので、今の事業を全てやり  
ませんよという話ではありません。

そこについては正直言って、財政計画を組むためには全予算を管理しなければ  
財政計画はできませんから、全事業を管理します。ただ、総合計画によって  
何を重点的に進めていくのかを、町として町民に対する説明責任がありますか  
ら、そこについては明確に出しているということで先ほど私はご答弁させてい  
ただいておりますので、今、山蔦委員が言われていることもまさにそのことだ  
と思いますので、そのように進めていきたいと思っています。

以上でございます。

(山本会長) そのほかございますでしょうか。大庭委員お願いいたします。

(大庭委員) 今まで委員の方がいろいろ言われているんですけども、私は川崎から引っ越してきて、30年ばかり寒川町に住んでいるんですけども、実際に住んでいるところから見てみると、逆に言うとほかの町とか都市で問題になっている、例えば自衛隊の基地があるとか、原子力発電所を設けるとか、農業が盛んなところに台風が来てすごい災害が起きて、町が全体困っちゃうと、寒川町自体そういう大きな問題というのが、よく言えないんですよ。そういう点もあると思います。

それから、私のところで寒川に住んでいる人といろいろと話してみると、確かに町の計画とか、そういうものに対して無関心な人もいますけれども、結構いい意味で人間ができていく人が多いんです。例えば東京なんか見ていると、結構そこに住んでいる人がどんどん自分の意見を言っているわけです。ところが、寒川の方は、そういう意見もあるけれども、ここは我慢しなきゃいけないんじゃないかなと。寒川町としてはそういう人が多くて、そういう風土的なものもあって無関心というんですか、町民が行政のいろんなことに関わらなくても大丈夫だし、みんなもそう思っている。そういうことを感じています。

ただ、今後の寒川町は、今問題になっていますように公共施設の問題をどうするとか、労働人口が減ってくるので予算が当然減ってくる。そうすると、行政サービスが落ちてくる。さらに、私が一番心配しているのは地震がこれから来ると。地震が来れば、町としては災害復旧にお金を割かなきゃいけないので、例えば国とか県から災害復旧費の補助が来ると思うけれども、町自体も復旧に予算を使わなくちゃいけない。そうすると、予算執行上、今ここで立てたものがそのまま進まなくなるということで、町民の方もそうなれば、町の計画とか行政について、今後は関心を持たざるを得ないんじゃないかと感じています。

(山本会長) ありがとうございます。事務局お願いします。

(事務局) ありがとうございます。今、大庭委員からいただいた関係は、先ほど小笠原委員からもいただいた、今はいいけれども、リスクとしては、今いただいた地震ですとか、公共施設の問題は今もさまざま議論されていますけれども、いろんな大きなリスクは抱えているということですので、そういったものはより多くの町民の方に共有していただいて知っていただいて、そのリスクに対応していくためにはこういった備えは必要なのではないかといったことも含めて、町として何を重点的にやっていくかということを決めていかなければいけないのかなと思っておりますので、そういった意味で貴重なご

意見として受けとめさせていただきたいと思います。ご意見ありがとうございます。ありがとうございました。

(山本会長) そのほかございますでしょうか。千葉委員お願いします。

(千葉委員) 今、結構意見が出たので、私が書面で申し上げたことも含めて、ちょっと重複するかもしれませんが、まず私が町のこういうものにかかわるようになってまだ数年なんですが、皆さんから出ているように2020計画は見た感じ、厚いし、わかりにくいということは間違いなかったですね。これは見てみると、先ほど財政の問題もありましたけれども、組織を抱えている以上は必ずいずれもお金を使うような仕組みになっちゃうというか、これはどんな世界でもそうなんです。

ただ、役所の場合には、一旦決めたものはそれで進んじゃうという傾向があることと、今、計画を立てると全てのところがそれにかかわるような、つまり部制度がしかれて、ずっと自分たちも何かやらなくちゃいけないということで、そういうものを積み上げていくとこれだけの財政になるので、これはこれで欲しいということで、計画が何となく硬直したまま、それはそれでやっちゃおうねという感じになっているのではないかなと。

そういう意味では今度、全部の大きな課題を絞り込んだ上で、それに対してどうだということをやっていくという方法は、藤沢の話がありましたけれども、大変結構なやり方の一つだと思います。

ただ、そのためには、こういう計画の進捗状況をどこが管理するのかということが問題でして、今の町の行政の縦割り形式を見ると、部まではつくりましますけれども、実はこの前、理事者懇談会の中で、町のトップはどこに責任を持って、この部門は町長がやります、副町長がやるんですかというお尋ねをしましたが、それはちゃんとなっていますというお話だけで曖昧で、ちょっとびんときなかつたんですが、そういう意味でも計画を今度組まれるときには、なぜ企画がここで我々の事務局としてこの運営に携わっているのかということになると、企画として考え方を出したら、それが徹底できていて、なおかつ計画を組むときに徹底できていることと、進捗したものを吸い上げたときに、しっかりなっているなという計画をまとめる司令塔の役目は、あくまで企画にあるのかなと思うんです。

そうすると、具合の悪い話についても相談に乗る、重複している話についてはダブっているから、消していいよと。こういうものを最初から総合計画審議会を進めるときの役目として明確にしておかないと、ほかの部署はおれのところはこれだけやっているから、いいじゃないかということになるので、そうい

う役目の分担をもっと上の町長、副町長も含めた段階まで一遍論議して、だれが最終的に変える場合の指示、あるいはそれをもっと進めるといふ促進を図る、そういう役割をもう一度組み直していただくのがいいんじゃないかなといふのが1つです。

それから、長くなって申しわけないんですが、自分の経験から申し上げますと、自分は寒川に43年住んでおりますけれども、正直、昭和40年ぐらいは自分のいた組織に没頭しておりましたので、町民としての認識はございませんでした。つまり、ここに職はないけれども住んではいるという方が、これからも増えてくる。若い方々を増やすように、今、住宅の問題とか、いろいろ誘っていますから、高座のころもそうですけれども、そういう中で若い人がどういふふうを考えているかをつかむのは並大抵ではない。

私どもの時代だったら、今申し上げたように、あんまり町のことにはかかわらずに、とにかく自分のやるべきことに邁進していた過去がございますので、それを変えるようなアイデアで住民の意見をとらないと、これから若い人たちが入ってきても同じようなパターンで、仕事には行くけれども、町のことは家内に任せているということになるのではなかろうかと。

長くなりますが、もう一つの例は、私どもの自治会で初めて、ちょっとした活動を全世帯でやることにしました。そうしますと、ブロックごとに大体かたまっています、古い方がおられるところは案内を出すと思わず返信が来るんです。ですけれども、若い方が入ってきているブロックの班なんかは、ちょっとした活動をして、こういうものがある朝、掲げてくださいという活動をしました。そうすると、100%近いのは年齢の古い人なんです。つまり関心もあります。ある程度自治会で出した指示に対しては、それがうまく行き届く。しかし、若い層の入っていただいた班のブロックはなかなかそれが半分もない。こういうところに年層によって違いがありますから、町の皆さんの声を吸収するのにもそういう実態があつて、なおかつ若い人を集めたいという心がけを高座のころでもうたっているわけですから、そこを組み込んだ意見の吸収が必要んじゃないかということをおもいましたので、事例として紹介をいたしました。

(山本会長) 事務局お願いします。

(事務局) まず、1点目ですが、まさにそこは企画部長の役割だと私は思っています。包括的に町の行政を全体的に見る立場として、私も査定の場面とか、いろんな場面がありますけれども、私としては基本、一旦決めたからこれを続けるつもりは全くなくて、やってみて効果があるもの、効果がないものは徹底的に見直

すという中で、予算編成の中でもかなりそこは突っ込んでお話をさせていただいています。

私、企画部長であるんですが、いろんな部にまたがった仕事をさせていただいて、いろんな場面で入っています。そういった中では、引き戻す事例もあれば、推し進めなければいけない事例、予算についても集中投下をするか、全くそこについては効果がないからゼロだという形でやる場面もあります。

そういった中で、私も町長、副町長と情報を共有しながらご相談をさせていただいて、町政全体をさせていただいているわけでございますので、微力ではありますが、今後についてもそういったところで部を越えて、要は縦割り行政にならないように、横の連携がしっかりとれるような役割を果たしていきたいと感じておりますので、そこについてはだれが責任者かと言われれば、最終的にいうと町長なんですけれども、実際、内部としてはそういった役割の中で私どもも一生懸命頑張っていきたいと思っています。

それと、若い人の意見の取り入れ方ということなんですが、まさに私も正直、今一番悩んでいるところであります、どうしてもアンケートを出しても回答者は65歳以上の回答者がほとんどといった中で、そのアンケート一つとってまちづくりをすると、高齢者のためのまちづくりということになってしまいますので、我々はそのアンケートの属性を見ながら、全ての答えではないというふうに思っています。

そういった中で補完をする意味で、最近ではSNSといったところを活用しながら、eマーケティングリサーチ制度というものをつくりました。これの登録はおおむね20歳代、30歳代が70%ぐらいを占めております。回答率も大体80%を超えている。これが全てではないというふうに思っていますので、よりこの母数を拡大しながら、より若い人の意見を聴取していきたい。また、最近ではまちびとすたいという形で、JC、商工会の青年部、農協の青壮年部、そういった方々の出身母体であると思いますが、若い人が町政に参画して、意見をいただきたいということで声かけをさせていただいています。なかなか増えていかないの、私もちょっと今頭を悩ましているんですが、そういった若い人たちがどんどん町政に参画していただいて、そういった若い人たちの感覚も取り入れた町政運営をしていくことによって、この町に移り住むのもいいと思っただけの方を増やしていきたいと思っていますので、こういった取り組みを拡大していければと思っています。今後もそういった団体とも連絡を密にしながら、より若い人たちの意見を取り入れていきたいと思っています。よろしくお願ひしたいと思っています。

(山本会長) 千葉委員。

(千葉委員) 蛇足になるかもしれませんが、高齢者としての経験談。今、町長、副町長を含めて企画部長のところ、そこが司令塔になるということを明確にいただきましたけれども、あえて申し上げるならば、気をつけていただきたいのは、権力が集中すると、逆に言うと、そこによどみが生じる。これは自分が経験した組織で。そのところは謙虚で、なおかつ耳を傾ける姿勢がないと組織は必ず硬直化します。つらいでしょうけれども、そういう責任があるというふうにおっしゃっていただいたのは大変心強い限りなので、それに大きな耳を、ジャンボな耳をおつけいただいて、この総合計画等の運営にかかわっていただくことが望ましいと思うので、自分の経験談からいつもそういうことが気になって組織にかかわってまいりましたので、よろしく願いをいたしたいと思いません。

(事務局) ご意見ありがとうございます。今、千葉委員が言われたことはまさに私の仕事の本質でありまして、私も謙虚であり続けたい。他者の意見を聞きながら、みずからが最初に判断をするわけではなく、データを集めて最終的に首長判断を求めていく。その調整役として私がいるというふうに思っておりますので、決しておごることなく、謙虚な姿勢で町政運営に臨んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(山本会長) この件に関してよろしいでしょうか。では、小川委員。

(小川委員) 私は民生の主任児童委員ということをやっている仕事柄、どうしても子供のことが気になっております。それで、住民が求めている事業等を盛り込んだ計画とか、住民満足度というのが大事だとは思いますが、ここの寒川町という土地柄上、藤沢市とか茅ヶ崎市、平塚市という、わりと発展した都市、言ってみれば地価の高いところに挟まれたところというのが、近年ちょっと傾向として、役場の方はおわかりになっていらっしゃると思いますけれども、少し困り事を抱えたご家庭がわりと入ってこられております。

そして、そういうご家庭とか、おうちの中から出てこなくなってしまった子供に関しては、なかなか頑張っても声をかけることが難しかったり、出てきてもらうことが難しかったりということがありますが、そういう中に入ってしまった子供たちの人生の重みといいますか、今はおうちの中に入っていて出てこなくて何もあれですけれども、これが5年、10年たったときにその子供たちがどういうふうに社会からこぼれていってしまうのか、またその後何があるのかというのが、今は見えてないけれども、重要ななと思いますので、町の方

向性をはっきりなって、岩崎さんがおっしゃったように、求心力が出てきて活気が出てきたとき、そういったところにも余裕が出てくるかもしれませんので、ぜひそういった声を出せないところも気かけながらの計画をしていただければと思います。お願いします。

(山本会長) 事務局お願いします。

(事務局) ありがとうございます。人それぞれいろいろなご事情を抱えている。ここにいるお一人お一人も違った環境がございまして、とにかくそういうふうにおうちに引きこもってしまう方とか、お一人お一人それぞれのお気持ちですとか、理由は確実にどこかにあるなと私も思っております。

よくメリハリのきいたとか、選択と集中という言葉を使うんですけども、悪く捉えると、切り捨てられる人が出てしまわないかといったご指摘もあると私は認識しておりますので、一人一人を大切に、それが高座のころでもあると思っておりますので、みんなが言っているんだからいいんだとか、そういう悪い方向にいかないように、最初ちょっとご答弁申し上げましたけれども、お一人お一人の気持ちをしっかりと捉えながら、今、委員がご心配しているような悪い方向にいかないようにきちんと対応してまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(山本会長) 事務局お願いします。

(事務局) 今のお話、正直、私の耳にも入ってきておりまして、家庭、学校を取り巻く諸問題について大胆にやる部分もあれば、きめ細かくやらなければならない部分、特にそういった部分はかなり繊細な部分がございますので、じっくり向き合って繊細に対応しなければならない案件だと思いますので、そういったところはある種教育委員会と調整をしながら進めていきたい。

学校現場の方の声、あと我々行政側の声、実際ご家庭の声と、いろいろぶつかる場所も多々あると思うんです。そういったところはその子供を中心に考えてあげなければ話にならない部分もありますので、そういった繊細なところについてもきめ細かく対応できるような方法をとっていきたいと思っております。ありがとうございます。

(小川委員) ありがとうございます。

(山本会長) そのほかよろしいでしょうか。では、議題(2)についてはこれで終

了させていただきます。

続いて、議題（3）について説明をお願いいたします。

<事務局から高知県佐川町への視察について>

（山本会長）資料3の説明がございました。ご意見を伺いたいと思います。

（平本委員）何で高知県佐川町になったのか、その経緯を教えてください。

（山本会長）事務局お願いします。

（事務局）ちょっと先ほど触れたんですけれども、我々が仕事をしている中で、こういう自治体にはこういう特色ある取り組みをしているよという情報を得られるようなものを設けて、職員が見られるようになっていきます。それはいろんな分野の情報があるんですけれども、そういったものを見ている中で、総合計画の策定の関係で高知県佐川町がこういうものの取り組みをしているよというのがわかります。その書いた本が市販されているということで早速買ってきて、中身を読んでみました。

書いている内容、取り組み自体が、町のほうでこういった点が課題だな、ここをうまく解消していかなければいけないという方向性とマッチしたものでしたので、相手側の意向もあります。聞いてみたところ、ぜひいらしてくださいという快諾をいただけたというのもありまして、高知県佐川町に行くことになったという経緯でございます。

（平本委員）わかりました。

（山本会長）そのほかございますでしょうか。小笠原委員。

（小笠原委員）今の平本委員さんがおっしゃったこととも関連するといいますが、ちょっとその次なんですけれども、これ例えばとして6点ありまして、これはあくまでも佐川町の中でこういうことができるということで実際なされているわけですね。そういうのをやっておりますと。

1番は明らかに移住希望者が年々佐川町に集まってきているという計画があって、それがあつてうまくいっている例として。ところが、その下のほうについては、一過性で終わるような内容が結構多いんです。とりあえず話題を集めました。とりあえずやってみました。何かちょっと新しいものに関心を持

っているという段階ではないかなと思うんです。だから、寒川町としては寒川には何があるのか。例えばこれに照らしたときに、寒川はこういったところを生かすために、この方たちがそれを生かすためにどのような取り組みをしたのかという具体的なものなどを求めていらっしゃるんだろうと思うんですけれども、寒川町としての強みは何だと皆さん思っているんでしょうか。それがなければ意味がないような気がするんです。何もないけど、行ったら何か見つかるだろうということではないと。当然そうだと思うんです。ですから、寒川のこういった面が特徴、強みというものを生かすためには、まだ根拠があるのではないかなという部分もおありかなと思うんですけれども、いかがでしょうか。

(山本会長) 事務局お願いします。

(事務局) この具体例をお示ししたのが、少し誤解を招くかなというところがあったんですけれども、これは当然、佐川町ではこういうことをしていますということによって、我々がこれと似たようなことを学びに行くということでは当然なくて、まち・ひと・しごとという総合戦略をつくるときに、寒川の強みはどのようなところにあるのか、よさはどのようなところにあるのかという分析をしておりますし、今やっていますタウンセールスですとかブランディングの活動についても、そういった寒川のよさをこういった形だったら生かさせていけるのではないかなということで、そこら辺をしっかりと踏まえた上でやっていますので、その中でそこをよりよく生かしていくためには、手法として佐川町のやり方を学ぶことで、うまく寒川のよさをもっともっと生かしていく仕組みが構築できるのではないかなという観点で、実際に足を。

電話などで話すだけではわからないよさがありますし、逆にうまくないところもわかるかなということもあって、むしろ我々が主に学びたいのは、やり方そのものも学んでみたい。そのやり方を用いてつくったものでいろんな取り組みをしているけれども、それが本当に当初思い描いたようにうまくいっているのか、それともいってないとしたら、どういったところが想定外だったのかとか、思いが至らなかったのかということも学びにいきたいということで、ちょっと行ってきたいなと思っているところでございます。佐川町を一から十までまねをするのでは、逆に言うと、よくないかなと思っています。

(小笠原委員) ちなみに、視察される方たちはこういった構成メンバーになるんでしょうか。それはまだ未定なんですか。

(事務局) 具体的に申しますと、我々企画政策課は私を含めて山下と三澤ともう1人、赤崎という若手の職員がいるんですが、この4名、それと広報戦略課の統計マーケティング担当の業務をしている職員1名、それと協働文化推進課で住民協働の仕事に携わっている職員が1名、その6名で行ってまいりたいと思っております。かなり遠方なので経費が、大勢だとなかなか行けないということがあるんですが、ただ、ごく限られた人数で行ってもちょっと偏るかなと思いますので。

(小笠原委員) そうなんですね。職員なので、もっと違った視点で見られる方は同行なさったほうがいいのかなどという気もするんです。あくまでもこれは視察で、職員の方ということになっているので、人選とすればそのようなことになるのかなと思いますけれども、せっかくの機会ですので、もうちょっと違った視点も、今、多様性って挙げていますよね。そういった視点というんでしょうか、そういった方たちも、ぜひせっかく行かれるのであれば必要かなというふうに個人的には思いました。

(山本会長) 事務局お願いします。

(事務局) ありがとうございます。できるだけそういう形で進めていきたいと思っております。我々も実際に行った結果については、職員に対して、こういう結果だったというのはお話をしたいと思っております。その中で今のようなご意見も、そういうことでぜひ一緒に行ってみたかったと言ってくれる職員は当然のことながらいると思いますので、それはそれで、限られた予算の範囲というのものもあるんですけれども、できればそういう形がとれればということもあると思いますので、その辺は行った結果を見て、また考えていきたいと思っております。

(小笠原委員) ぜひ成果という期待をしています。

(事務局) ありがとうございます。

(山本会長) この件よろしいでしょうか。内野委員。

(内野委員) この視察をするというのはいいと思うんですけれども、ちょっと文章が書いてあったんですが、佐川町の人口は1万3,000人ぐらいで、353人参加したと。寒川は4万8,000人で、さっき三十何名とかって言いましたね、高座のころの。

それで、ちょっと言いにくい話なんですけれども、高座のころのときに商工会の、例えば部会とかに説明にこられたときは全部決まっていたんですね。それで、私のほうで商工会のほうにはこの話があったのかと職員の方に聞いたら、全くなかったということで、町の関係職員かどうかわかりませんが、なぜかということ、非常に言いにくいんですけども、いろんなところへ行くと話がまとまらないから、声をかけないんだという話をされたんです。実際どうだかわかりませんが、確かにある程度少ない人数でやって、いいものが出てくればそれで、あまり広く広げると話がまとまらない、さっきの総花的な話とリンクするんでしょうけれども、そういう部分もあるのかなと。それはそれで理解できないことではないと思いましたけれども、そういう回答があったことは事実なんです。

ですから、町としてはどっちを望んでいるのかなと。ちょっとそういう矛盾があるのかな。例えば、多くの町民とかいろんな団体とか、いろんな方から意見を吸い上げたいのか。これで見るとそういう感じですよ。ただ、高座のころのころの話とはちょっと違うなという感じを受けたので。申しわけないですが。

(山本会長) 事務局お願いします。

(事務局) 今、内野委員からのご指摘、高座のころのときにはそういった考え方もあったようですけれども、この総合計画についてはより多くの方にかかわっていただいて、自分もかかわったということになれば「自分ごと」になりますし、全部が全部できないけれども、自分はここが大切だと思っている、そこは責任を持って自分としてもやりたいというふうの一つ一つのかかわりが広がることが、みんなで町をどうしていこう、よくしていこうということにつながるというふうに私としては捉えておりますので、そういうつくり方をしたい。

ただ、先ほどほかの委員からも出ておりましたけれども、一人一人の希望を全部聞いたらまとまりがつかなくなる、そこはどうするんだということ、むしろそれはソーシャルデザインという手法、ある意味専門家も一度かかわっているようなので、いろんな意見が本当にいっぱい出ております。

ざあっとこの本にも出ているんですけども、これをうまく、どのような形で集約していったのか。結果的には、佐川町の場合は25のアクションプランというものをつくっているんですけども、どうやったらいっぱい出た意見が25のアクションプランに収束できたのか、そのアクションプランはうまくいっているのかということでも学んできたいと思ってございますので、それでよければ、よいところは寒川方式で取り入れさせていただいて、より多くの

町民の方にかかわっていただきながら、あまり総花的にならないように、わかりやすいものにするためにはこういう手法をとればできるなというところを見い出していきたいと思っております。

以上でございます。

(山本会長) そのほか。山蔦委員。

(山蔦委員) 民間にいた人間からすると、今、出張するというのは企画書になって出てくるわけですね。当然企画部だから、そういうことはご存じだと思いますけれども、何も佐川のことをまねしにいくわけじゃないと思うので、少なくともこの裏にはいろんなことを調べたと。町の今抱えている問題はこうだと。これを解決するにいろいろ調べたけれども、ベストは佐川だと。だから、佐川に行きたいと。お金は幾らかかるとか、成果は必ず出しますという提案書が、普通の企業の企画書のパターンなんです。ところが、これは何も書いてないわけ。だから、ぜひお願いしたいのは、行くのは僕はいいと思うんです。いろんなところを視察するのは大事だと思いますけれども、少なくとも東京近辺、この辺でやっているところを調べて、表ぐらいここへつけていただいて、例えば藤沢はこうです、我孫子はこうです、千葉県白井市はこうですという近くのことは1日で行って帰ってこれるんですから、1人か2人行って調べて、それを全体に並べて、ここを知りたいんだと。狙い撃ちしていくなら佐川が一番いいというのは構わない。一番それがベストだと思う。

だから、そういう組み立てをやらないと。6人でいきます、いいですかというだけじゃちょっとね。だから、よく調べて、きょう丸山さんもいらっしゃいますので、この近辺でどういうことをやっていて、どこがユニークかということとはよくご存じだと思うので、よくアドバイスいただいたりして企画書をつくって、それからという感じを私は受けます。どうですか。

(山本会長) 事務局お願いします。

(事務局) 今いただいたようなことは内部的にはしております。ですので、どこも調べずに佐川町に行くということではございませんので、ご理解いただければと思います。

(山蔦委員) その説明が欲しかったですね、頭に。

以上です。

(山本会長) 杉崎委員。

(杉崎委員) 私もいろんなところを見るのは全然いいと思います。ここ数年、多分こういうことはやってないので、いいと思います。

ただ、先ほどもいろいろお話が出ましたけれども、メンバーも、今回はこのメンバーで行くということですので、それはそれでいいんですけども、最近特に思うのは、企画の方たちとか、確かに町は変わりつつあると思うんです、今。広報にしても、SNSの活用にしても、皆さんのご意見なんかを聞いていても、本当に今変わってきているなと思うんですが、ほかの課との格差をすごく感じるようになったんです、逆に。そうじゃない課の熱意とか、こなしている感覚とかにすごく差があると感じています。それから、年代別でも感じます。特に若い方たちは今、いろんな形で頑張っているんですが、そうじゃない世代の方たちとの温度差というのを感じるようになり、それだけ皆さんが頑張っているんですけども。

ですから、先ほどの話ではないですけども、視察に行くのは全然いいし、勉強をぜひしていただきたいと思うんですけども、それをいかに庁内で生かしていくかということはしっかりとお願いをしたいと思います。それが総合計画に反映できるような形を、全ての課がこういう形で総合計画をつくるんだという意識を持っていただけるような、その辺のところをお願いしたいということでございます。意見です。

(山本会長) 事務局お願いします。

(事務局) ありがとうございます。うちの職員の若手3人を連れていきますけれども、あと住民協働の関係の若い職員を連れていきます。彼らは高座のこころの内部的なプロジェクトチームということで、高座のこころに資する施策の構築ということで、いろいろ時間を工夫していただいて、自分の本業もありながら集まっていたら、高座のこころの若い職員目線での施策の構築を今進めていただいているメンバーでもあるという人選は、限られた人数を連れていく中で、今ご指摘いただいたような温度差があるということをいかに埋めていくかという意味で、人選としてはそういったことでプロジェクトチームにかかわっているメンバーということで人選したところでございます。

当然のことながら報告会という形で職員向けに、我々が得てきたものをお伝えしながら、今生じてしまっている温度差というものを埋めていくことに努力していきたいと思っておりますので、本当に行ってよかったなという自己満足にならないように、報告したことで厳しい意見も逆に言うと出ると思いま

す、職員からも。それは真摯に受けとめさせていただいて、それを捉えてより良くしていきたいと思っております。ありがとうございます。

(山本会長) この件に関してよろしいでしょうか。それでは、議題(3)については終了いたします。

議題(4)につきまして、事務局より説明をお願いいたします。

#### <事務局から持続可能な開発目標(SDGs)について>

(山本会長) 今、事務局よりSDGsの説明がございましたが、皆様のほうから何かご意見ございますでしょうか。山蔦委員。

(山蔦委員) こういう世界的な動きというのは今まで何回もあるんですね。環境ホルモンであったり、PM2.5であったり、CO<sub>2</sub>、地球温暖化であったり、こういうのが出てくるんですが、寒川で今、普通にやっていることを、そのお題目に当てはめようと思って大分苦労することが多々あるということを感じておいてほしいことと、もう一つはお金をあまりかけないでほしいということです。これは地球規模の問題なので、小さな寒川の4万人ぐらいのところでもくらくらやっても効果など地球規模で出るはずがない問題なので、PRはいいと思いますけれども、これに関してお金をかける場合は、必ず費用分の効果をきちんと頭に置いて活動を組み立ててほしいということです。

CO<sub>2</sub>について言うと、排出権取引でCO<sub>2</sub>は5,000円/トンぐらいが国際相場になっているんです。だから、それをオーバーするものはやらないように、国がまとめてどこか開発途上国にやったほうがよくなるので、今CO<sub>2</sub>を減らす太陽光発電の見直しが進んでいますけれども、同じようにヒステリックにぼーんと何かが出て、ひゅーんとすぼんじやう可能性もあるテーマはかなりありますから、それはぜひ冷静に、小さな寒川町で何ができるかという観点で取り組んでいってほしいと思います。

以上です。

(山本会長) 事務局お願いします。

(事務局) もともとこれは国連で合意したからといって、そのとおりにやらないというものではございません。それぞれの地域の課題に合わせて、ローカライズしてやらなければいけないと逆に考えております。

それと、小さな自治体だから、効果がないから取り組まなくてもいいみたい

に私は聞こえたんですけれども、ストローの関係にしても、食品ロスについても一人一人が取り組むことが世界の動きにつながると思いますので、そういう観点で進めていきたいと思っております。

以上でございます。

(山蔦委員) それの問題だと言ったのであって、必ず費用対効果を考えてやってくれという意味ですよ。いいことだからやったらいいじゃないかというのは、いくら言ったって構わないです。ただ、それに非常にパワーを注ぎ込んでまでやる時は、必ず費用対効果を考えて動いてくださいと。それが世界の常識ですよということをお願いしたんです。

(事務局) 私がローカライズと申し上げたのは、文字どおり身の丈に合ったことをやるという意味ですので、よろしく願いいたします。

(山本会長) 小笠原委員どうぞ。

(小笠原委員) 山蔦委員のおっしゃることも一理あるかとは思いますが、これは県内で寒川町と2つ？

(事務局) 県内では神奈川県と横浜市と鎌倉市です。

(小笠原委員) 寒川町は選定とか何かにされたんでしょうか。

(事務局) これは募集があって、そこに応募して、内閣府の厳しい選定のもとに選ばれるという仕組みになってございまして、まだ寒川はそこまでいかないということでございます。

(小笠原委員) あっ、そうなんですか。失礼しました。

(山本会長) このSDGsというものに関しても、今後、これから考えられるプランというものとマッチングできるものはマッチングさせていながら進めるということで、今回議題に挙げられているという理解でよろしいんですか。

(事務局) もちろんその中で、新たな総合計画にもこの考え方は反映させていきたいということで、まずきょう最初の皆様へのご説明という位置づけになります。

(山本会長) 今、県でもSDGsに関してはさまざまな企画の見直しがかけている中で、このSDGsという取り組みというものもしっかり視野に入れられた展開がなされているといったことを報告させていただきます。

そのほかございませんか。

(岩崎委員) この取り組みはいろんな団体とか、さまざまな組織で行われていることだと思っております。決して悪いことではないのかなというふうに私も考えているんですけども、働く者の立場からお話しさせていただくならば、町の職員の方にとってみれば、通常行われている行政の仕事、当然理事者の方もそうですよ、それにプラスアルファの仕事というイメージにどうしてもなりがちなのかなと思います。

日々の業務に追われながらも、また新たな課題といいますか、こういった中身の内容が自分の業務に負担となって、逆に疲弊しないように、そういった働き方というのもぜひ企画のほうでも留意していただきたいと思います。

せっかくやるのであるならば、先ほどもお話がありましたけれども、結果として空振りに終わらないような成果というものは出すべきだと思いますので、もしこの取り組みを行うことによって行政の事業に支障を来すようなことがないように、またそういうことがあり得るという想定があるならば、適材適所の職員の配置ですとか、そういった部分も含めて考えていただきたいなというふうに私からの意見とさせていただきます。

(山本会長) 事務局お願いします。

(事務局) 実はこれは9月の末に職員向けに説明会をやっておりまして、そのときに出た意見が、あれもこれもでなく、やめるべきものはやめて、やるべきものはやるという、要はバランスをとってほしいという意見が出ました。それは先ほど山蔦委員に言っていただいておりますように、これを掲げたから何かやらなきゃいけないというのは私は違うと思います。これはラベリングをするというふうに先ほど申しましたが、同じラベルが張られているもので、従来であればそれぞれ単発でやっていたものをうまく連携して取り組むことで、より効果が出るのではないかとということで活用していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(山本会長) そのほかございますでしょうか。

(丸山委員) このSDGsの取り組みについては、実は私ども神奈川県が未来都市とSDGsモデル事業ということで内閣府から選ばれまして、都道府県では私ども神奈川県のみということになります。

それで、これについては選ばれる前から、ことしの1月から知事が、SDGsの取り組みは2030年までに世界を挙げて取り組んでいくものなので、ぜひ県としても市町村の皆様も一緒に考えていきましょうと。かつ行政がやればいいということではなく、本当にお一人お一人の取り組みがこれの成果につながっていくということでお話をさせていただきます。

それで、そうは言っても17も目標がありまして、一体何をするのかという話になりますので、先ほど町のほうからもラベリングという話がありましたけれども、実は既に今やっている政策が全てこれにかかわってくる、必ず成果につながってくるものなんですと。それをまず意識しましょうということで、県も実はラベリングをいたしました。町もこれからされるということですので、新たに何かということではなく、今やっている行政のいろんな取り組み、あるいは民間のいろんな取り組みがこの成果につながっていくものですよということを、まず意識しましょうと、みんなで。

かつ、県ではわかりにくいので、こういうことをやるというのでしょというのをなるべくわかりやすく県民の皆様にご理解いただくということで、さっき5つある中の4つだけここに例として載せていただいているんですけども、例えば「かながわプラごみゼロ宣言」というものなんですけれども、そういうものやっというのをわかりやすさという意味で幾つか取り上げて、アピールをさせていただいております。

それは寒川町でこれからどうお取り組みになるか、あるいは民間ではかなり進んでいらっしゃる企業さんもたくさんありますけれども、それも県民の皆様にも意識を少しずつ持っていて、大きな形で成果が繋がっている、世界全体で成果につながるような形で何ができるかというのを、今まだ県もいろいろ試行錯誤しながらアピールをさせていただいたりしているところがございますので、ぜひ今後、皆様にもいろいろお知恵をいただきながらやっていただければと思っております。よろしく願いいたします。

(山本会長) よろしいでしょうか。ご意見がなければ、以上で本日の議事は終了させていただきます。皆様のご協力まことにありがとうございます。

それでは、事務局のほうにお返しします。

○閉会

<p>配付資料</p>	<p>資料 1 平成 30 年度第 1 回寒川町総合計画審議会書面会議における委員からの意見について</p> <p>資料 2 寒川町総合計画「さむかわ 2020 プラン」の問題点・課題及び見直しの視点について</p> <p>資料 3 高知県佐川町への視察について</p> <p>資料 4 持続可能な開発目標（SDGs）について</p>
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p>山本 哲（平成 31 年 2 月 19 日確定）</p>